

2008年兵庫県におけるツバメの 集団ねぐら調査結果

研究グループ 奥野俊博

ツバメは人家の軒下やアーケードの下など私たちにとって最も身近な所で営巣し、その子育てのようすはよく知られています。しかし、ツバメが夜間、集団ねぐらを形成していることはあまり知られていません。

それは、日没後に人家から離れた河原や湖沼のヨシ原などに集団ねぐらを形成するため、人目につく機会が少ないからでしょう。

一昨年と昨年は滋賀、京都、奈良、大阪、和歌山、兵庫の2府4県で構成する近畿ブロックで一斉調査が実施されましたが、今シーズンは一斉調査を企画されなかったため、兵庫県支部単独の県内調査となりました。



図1 日が暮れてヨシ原に飛来するツバメの群れ (写真：松重和太)

今回は、昨シーズンにねぐらが確認されました表1に示す13ヶ所を調査対象地として、7月下旬から8月中旬までの期間にねぐら入りの確認調査を実施しました。

表1 調査地点別ツバメのねぐら入り観察個体数

No.	調査日	ねぐら所在地	地名	ツバメ観察個体数
1	8月16日	豊岡市赤石 玄武洞前	円山川河川敷	30,000
2	8月17日	丹波市氷上町新脚	氷上町新脚	7,000
3	8月2日	宝塚市仁川北	阪急電鉄仁川駅前	113
4	8月1日	神戸市東灘区岡本1	阪急電鉄岡本駅南側	239
5	8月2日	神戸市兵庫区下祇園町	平野交差点	367
6	8月3日	神戸市西区神出町田井	大鳥喰池	0
7	8月2日	神戸市西区岩岡町岩岡	龍ヶ池・四号池	21,000
8	8月2日	三木市別所町下石野	美囊川河川敷(A)	35,000
9	8月2日	三木市別所町近藤	美囊川河川敷(B)	4,000
10	7月27日	加古郡稲美町加古	加古大池	10,000
11	—	加古郡稲美町七軒屋	天井池	—
12	8月3日	明石市大久保町松蔭	上川池	10
13	8月6日	加古川市尾上町養田	加古川河川敷(相生橋下)	30,000

表1に調査地点別観察個体数を、表2にねぐらとその周辺環境および調査地に関するメモを示しました。

13ヶ所のうち今回の調査時に集団ねぐらが解消されていたのは、No. 6の大鳥喰池、No. 11の天井池、No. 12の上川池の3ヶ所でした。

神戸市西区の大鳥喰池には狭いヨシ原がありますが、今シーズンはヨシの生育が悪く、奥行きが狭くなったことが原因と思われます。

稲美町の天井池は、2003年頃では1万羽を超える規模のねぐらでしたが、その後の改修工事により、ねぐらが消滅していました。しかし、昨シーズンに3千羽規模のねぐらに回復していることが観察され、ねぐら復活の兆しが見えましたが、今年1月から3月にかけて工事で出た残土をヨシ原に被せて処分されたため、今シーズンはねぐらが形成されていません。しかし、池の水張りは今後も継続されるということですので、ヨシ原の復活を諦めずに期



表2 ねぐらと周辺の環境

No.	地名	ねぐら環境	周辺環境	ねぐらの面積(a)	メモ
1	円山川河川敷	ヨシ原	河川	470	完全白化個体1羽確認
2	水上町新脚	トウモロコシ畑	水田	3	毎年8月末にはトウモロコシの刈り取りが始まり、突然消滅する
3	阪急電鉄仁川駅前	街路樹(ケヤキ)	市街地	2	ハクセキレイもねぐらにしている
4	阪急電鉄岡本駅南側	電線	市街地	2	一昨年からねぐら情報あり
5	平野交差点	電線	市街地	14	一昨年、ねぐら形成に気付く
6	大鳥喰池	ヨシ原	池	74	今シーズンはヨシの生育が良くなく、ねぐらは解消されていた
7	龍ヶ池・四号池	ヨシ原	池	120	昨年より規模が大きくなった
8	美囊川河川敷(A)	ヨシ原	河川	330	飛来規模は工事前の規模に回復
9	美囊川河川敷(B)	ヨシ原	河川	220	No.8地点から800mほど上流。昨年は多かったが、今回はNo.8に集中。
10	加古大池	ヨシ原	池	52	昨年よりさらに飛来数が多くなった
11	天井池	ヨシ原	池	79	池の残土をヨシ原に入れたため、今シーズンはヨシ原が消滅
12	上川池	ヨシ原	池	17	7月19日に約3000羽を確認したが、その後ヨシ原の一部が倒れ、移動した
13	加古川河川敷(相生橋下)	ヨシ原	河川	520	

待したいと思います。

明石市の上川池は7月中旬まで3千羽位のツバメが入っていることが確認されていましたが、7月下旬から利用していません。7月末頃の大雨でヨシの一部が倒伏していることが影響しているのではないかと思います。

ツバメの集団ねぐらの90%以上がヨシ原に形成されていますが、兵庫県内では、丹波市のトウモロコシ畑(No. 2)、宝塚市の阪急電鉄仁川駅前の街路樹(No. 3)、神戸市東灘区(No. 4)および神戸市兵庫区(No. 5)の市街地の電線利用のケースなどがヨシ原以外をねぐらとしている珍しい例として注目されています。

No. 2のトウモロコシ畑は、元は広いヨシ原を有する湖沼でツバメがねぐらとしていた場所でしたが、埋め立てて農地に転用され、牛の飼料用のトウモロコシが栽培されています。ツバメたちはこのトウモロコシをヨシに見立てて、根気よく権利を主張し続けています。

No. 8は、美囊川河川敷で太郎兵衛井堰付近のヨシ原で、一昨年大きな規模のねぐらであることが確認されました。昨年の冬、その付近で改修工事が行われてヨシ原が減少し、昨シーズンはその上流約800m地点の狭いヨシ原(No. 9)に分散してねぐら入りしていましたが、今シーズンは大半がNo. 8地点に集中し、工事前の状態に戻っていました。

以上、今シーズンのツバメのねぐら調査の報告と致します。毎年襲来するヤブ蚊に悩まされながら、こりることなく調査にご協力いただきました皆様に深謝致します。

調査に参加された皆さんと協力団体

飯田 肇	池口和三	梅津節雄	岡本良平
奥野俊博	梶本恭子	河藤昌子	下土居知子
鈴木 博	田中葉子	中村圭輔	新田朋子
原田恵子	飛田良平	藤原美菜	松重和太
松重美奈子			
但馬野鳥の会	丹波野鳥の会		

